



その魂の航跡を、目撃せよ――。

前人未踏の国スポーツ競技別天皇杯10連覇は、いかにして成し遂げられたのか。これは単なるスポーツの記録ではない。半世紀の時をかけ、このまちのDNAに刻み込まれた情熱と絆の物語。さあ、最強の源流へ。

久々子湖の静寂を破り、湖面に響く一糸乱れぬオールの音。それは、絶対王者だけが奏でる勝利のシンフォニー。

特集

湖と、人と、まちが滲ぎ出す

聖地が紡いだ、天皇杯10連覇の航跡

わたしの夢、語ります

山路 陽菜さん 美浜東小学校 6年(太田)

自分だけの夢

私の将来の夢は、まだ決まっていないけれど、人に優しくて、どんなことにも笑顔で頑張れる人になりたいです。そのように思ったのは、保育士さんやお店の店員さん等、さまざまな職場で働く人たちを見てきて、優しくて笑顔で頑張っている姿に憧れたからです。

そこで、特に注目したのは、お店の店員の方たちです。いつでも笑顔で優しく接客する姿や、高齢者を気遣って重たい荷物を車まで運ぶ姿を見て、少し興味を持ち、こんな人になりたいなと思いました。

今、自分にできることを考えると、まず勉強や習い事を頑張ること、誰に対しても優しく接することだと思います。私のできることから、一生懸命チャレンジしなりたい自分になれるように頑張ります。



CONTENTS 目次 広報みはま2026年1月号

- 2 新年のご挨拶
- 4 わたしの夢、語ります／表紙の写真／目次
- 5 特集 湖と、人と、まちが滲ぎ出す
—— 聖地が紡いだ、天皇杯10連覇の航跡
- 14 まちウォッキング
第45回美浜町子ども会卓球大会／人権のつどい2025 他
- 16 住民税申告と所得税の確定申告は
2月16日から3月16日まで
- 17 みはまのまなび通信 Vol.7
- 18 情報BOX
道路の除雪作業にご協力ください／美浜町新春のつどいを開催します 他
- 21 美浜発電所の状況について
- 22 すこやか放送局
- 23 ふるさと昔よもやま話164／文芸欄
- 24 ハートフル広場
はじめてバースデー／町人さん／慶弔／人口の動き／広報クイズ
- 26 くらしのカレンダー

- 表紙の写真 -



みずうみ保育園のくじら組の子どもたちです。

今年の干支にちなみ、午の顔のついたしめ縄を手に持ち、「あけましておめでとう」と新年のあいさつをしてくれました。

子どもたちが、新年も笑顔と元気に満ちた日々を送り、すくすくと成長していくことを楽しみにしています。

ローリングの聖地のはじまり

全国からローリングの聖地として注目される
いる美浜町。その始まりは、半世紀以上前に
開催された一つの大会にさかのぼります。

◆第23回国民体育大会の開催

町とローリング競技の関係の始まりは、昭和43年9月に福井県で開催された「第23回国民体育大会」にさかのぼります。

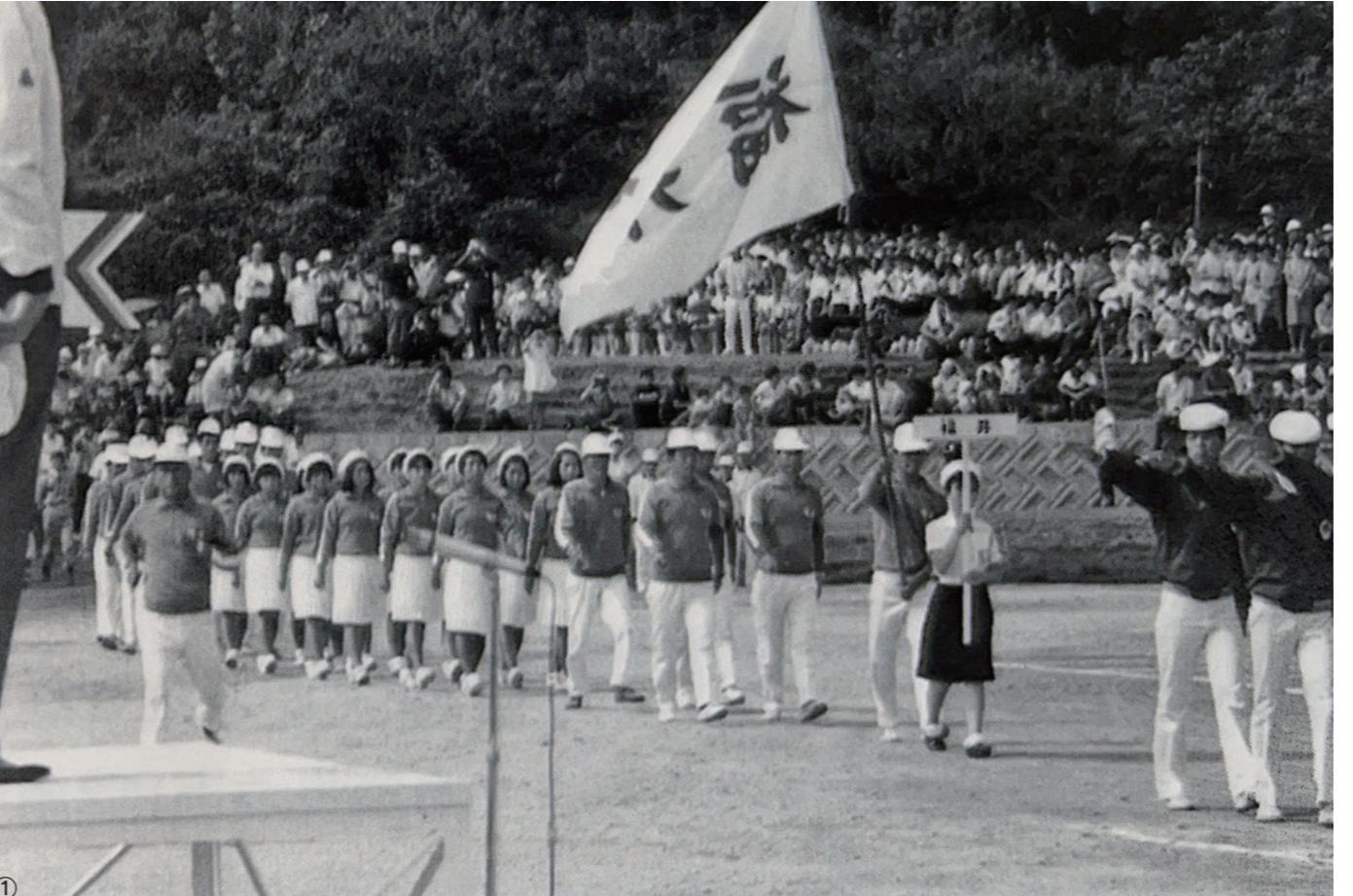
同大会のローリング競技は、県の会場地選考委員会で美浜町が選ばれました。会場となつた久々子湖は、漕艇場として自然環境に恵まれていましたが、國体コースとして認定を受ける必要があり、会場の整備等が必要でした。

このため、町は受入準備を整えるべく、昭和40年に「美浜町国体準備委員会」を立ち上げ、行政と町民が一丸となつて整備を行い、大会当日を迎えるました。

開始式では、当時の美浜町長で福井県漕艇協会長（現在の福井県ローリング協会会長）だった綿田捨三

氏が「漕艇競技大会が水光るわが久々子湖で行われることは美浜町民の最も光榮とし、喜びに堪えない。全国各地からお集りの方々には、1万3千町民心からご歓迎申し上げる」と歓迎のことばを述べ、計4日間にわたつた競技を成功裏に終えました。

同大会まで福井県には、一般男子（現在の成年男子）のナックルフォアクルー（4人漕ぎクルー）がありませんでしたが、開催地としての責務と町でのローリング競技の普及を願い、町役場職員が中心となり、美浜町漕艇クルーが結成され、同種目に出場しました。



①第23回国民体育大会ローリング競技開始式（旧北小学校グラウンド・昭和43年）
②第23回国民体育大会ローリング競技に出場した美浜町漕艇クルー（早瀬）
③第1回美浜町民レガッタ出艇桟橋（早瀬）
④第1回美浜町民レガッタ開会式（中央公民館・昭和63年）

①

◆部活動・実業団の創設

昭和44年4月に、県立美方高校が開校すると同時に漕艇部が創設され、昭和61年には、ローリング競技を町技としてさらに盛り上げていこうという町の要請を受けた美浜中学校がボート部を創設しました。

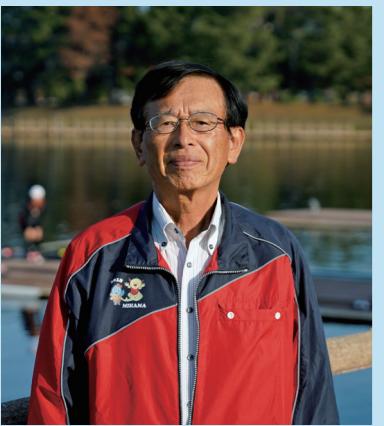
さらに、昭和62年には、優秀な選手の県外流出を防ぎ、国民体育大会の成年男子強化等を目的として県漕艇協会の要請を受けた関西電力が美浜漕艇部を創設しました。

第31回国民体育大会で、着実に昭和51年に佐賀県で開催された

◆各種大会での成績と

町技への道

その後も町民レガッタは、時代の変化に合わせ工夫を凝らしながら現在まで続く町の一大イベントとして、町民のローリング競技への理解促進と普及に大きく貢献しています。



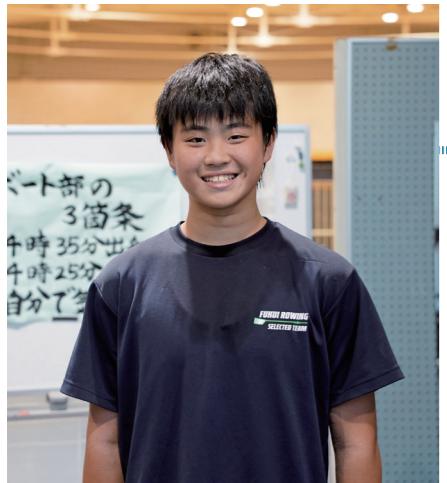
美浜町漕艇クルーとして
第23回国民体育大会に出場した
福井県ローリング協会
副会長 田邊 義郎 さん
(久々子)

国体に出場したことが
ボート人生の原点に

昭和43年の福井国体まで1年弱、急遽結成された美浜町漕艇クルーの一員として、ローリング競技に出場しました。

当時、西郷中学校に赴任された中江多津子（旧姓）教諭の指導の下、早瀬の淨妙寺で合宿を行なながら、朝日レガッタ等のレースを経験しました。しかし、にわか仕立てのクルーであり、本番では結果を残せずに終わりました。また、翌年の県内予選では小浜のクルーに破れ、残念ながらクルーは解散しましたが、当時の教育委員会職員の松井隆治氏から強い勧めもあり、松井監督と2人で競技を続けました。

その後、役場職員を中心に、美浜ローリングクラブを立ち上げ、レースや仲間意識を楽しみ、多くの仲間が継続して現在の競技運営に関わってくれることや、10月の国民スポーツ大会では、競技別天皇杯10連覇を見届けることができたことは、大きな喜びでした。昭和43年の福井国体に出場したことが、私のボート人生の原点であることは間違ひありません。



美浜中学校ボート部 男子キャプテン
2年 石場 悠斗さん（菅浜）

僕たちが強くなるのは、先生の熱い指導があるから

体験入部でエルゴメーターを漕いたことが楽しくてボート部に入部しました。県内の中学校でボート部があるのは、美浜中学校だけなので、ここでボートを漕げることがすごく嬉しいです。

僕たち美浜中学校ボート部が毎年強くなるのは、久々子湖で練習ができることも一つですが、僕たちのことを考え、熱い指導をしてくれる顧問の先生のおかげだと思います。これからも先生のご指導の下、各部員がレースを意識した練習に取り組み、夏の全中で男女総合優勝を目指します。



美浜中学校ボート部 女子キャプテン
2年 岡本 楓彩さん（佐田）

ボート部に所属して強くなりました

ローイング選手である兄の影響で、私も漕ぎたいと興味を持ち、ボート部に入部しました。部活での練習やレースはとてもハードですが、やり遂げた時や漕ぎ切った時の達成感がすごくあります。

ボート部に入って、やり遂げる力や誰にも負けたくないと思う強いメンタルが鍛えられ、新人戦でも最後まで漕ぎ抜き、優勝することができました。これからも、優勝を目指し、悔いが残らない最後まで漕ぎ切るレースができるよう、頑張りたいです。



ローイングを通して自分のやりたいことを

本校のボート部では、勝ち負けよりもローイングを楽しむこと、つらい時でも仲間と支え合って最後までやり遂げることを大切にしています。また、部活動は普段の学校生活をきちんと送つてこそその活動です。やるべきことはしっかりやる、地域の方々や町、久々子湖と一緒に練習をしている高校のボート部関係者等多くの人に支えられていること等を選手に伝え、地域の方々から応援してもらえる人となれるように挨拶や礼儀等の指導にも力を入れています。

生徒たちには、ローイングを通して、心身を鍛えることはもちろん、自分がやりたいことに対して受け身にならずに積極的にチャレンジし、自分が目標を達成してもらいたいと思っています。そして、生徒たちの思いに対して背中を押すことができるようなサポートをし、達成する喜びを味わえるように今後も指導を行っていきたいと思っています。



美浜中学校ボート部
顧問 東田 仁文 教諭



美浜中学校のボート部が創設されたのは昭和61年5月。町技であるローイング競技にジュニア期から親しむ環境づくりや同競技を通じた町の活性化を目的に創設されました。創設翌年から全国中学選手権競漕大会に出場し、これまで男女ともに幾度となく総合優勝を果たす等、輝かしい成績を収めています。

特に、平成11年からは、水上で艇を動かす感覚の優れた選手を育成することが高校でのスマートな競技継続につながるという高校指導者の助言の下、シングルスカルでのトレーニングが中心の練習スタイルを確立し、平成12・13年の全国中学選手権

競漕大会では、小柄な選手がシンブルスカルで優勝を果たしています。この頃から生徒たちは、1漕り組むことを意味する「一本でぎ1漕ぎ」を大切にして競技に取り組むことを意識する「一本で湖で練習を重ね、時には中学生離れしたしなやかで力強いローイングで全国制覇を果たす等、全国に美浜中学校の名を轟かせてきました。

美浜中学校ボート部では、楽しくボートを漕ぐことの大しさや同競技を通じた人間育成に重きを置いた指導を発足当初から脈々と培い、高校進学後も同競技を続け活躍する選手を多く輩出しています。

一本でより遠くへ

ローイング競技が町技として根付いた原動力の一つに地元学生の活躍があります。特に、県内の中学校で唯一ボート部を有する美浜中学校は、町内出身選手の多くがローイング競技に取り組む礎となっています。

◆美浜中学校ボート部の航跡



- ①「Attention ! Go！」の発艇号令で勢いよく飛び出すクルー（第10回・平成9年）
 ②見事入賞し、メダルをかけてもらう選手たち（第3回・平成2年）
 ③接戦の中盤、互いに譲らない各クルー（第29回・平成28年）
 ④30回目の開催を記念し、記念モニュメントを設置（第30回・平成29年）
 ⑤波で荒れるコースを懸命に漕ぐ選手たち（第19回・平成18年）
 ⑥息を合わせてボートを漕ぐ選手たち（第10回・平成9年）



なる等「ローライニングの聖地」として認知されつづきましたが、町民の間ではローライニング競技はボート部に所属する競技選手が行う特殊な競技と思われていました。

そこで、当時の美浜町長綿田光雄氏は、ローライニング競技を町民の皆さんに親しんでもらい、全員が楽しめるイベントを開催したいと検討を重ね、第23回国民体育大会開催20周年を迎えた昭和63年10月に第1回大会の開催に至りました。

同大会では、各集落や町内の事業所から125クルー約650人の参加があり、ガットマンやジエントルマン、レディー、ミックス、ファミリーの5種目で行われました。その後、平成18年には交流の部等の新たな部門を設けることで、年々参加クルーが増え、平成29年の第30回記念大会では、312クルー約1,800人が参加する国内最大級の市民参加型レガッタとなりました。

町民レガッタの開催により、町民にとってローライニング競技がより身近なものとなり、競技人口や交流人口の大等、大きな役割を果たしています。

- ①②レース間は、地域や職場の仲間たちと交流を深める楽しいひと時に（第24回・平成23年）
 ③朝日を受けながら、レースに臨む各クルー（第27回・平成26年）
 ④仮装してレースに出場し、大会を盛り上げる（第18回・平成17年）
 ⑤レース中に遊覧船が近くを走ることも（第20回・平成19年）



前人未踏の偉業

競技別天皇杯10連覇

令和7年10月に、滋賀県で行われた第79回国民スポーツ大会ローイング競技で、福井県は競技別天皇杯（男女総合）で平成26年の長崎国体から続く10連覇、皇后杯（女子総合）で平成28年の岩手国体から続く8連覇を達成しました。同競技では、町内在住者や出身者の活躍が目覚ましく、偉業達成に大きく貢献しています。



◆競技別天皇杯・皇后杯の決定方法

国民スポーツ大会ローイング競技の総合成績は、男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）に分けられ、競技得点と参加得点の合計が多い都道府県順に順位が決められます。

競技得点は、種目別に配分があり、選手が1人で出場するシングルスカルは、1位が8点に対し、コックスを合わせて5人の選手が出場する舵手つきフォアと舵手つきクオドルブルは1位に40点が与えられます。このようにして獲得した競技

得点に、ブロツク大会を含む本大会に参加した都道府県に与えられる参加得点10点を加算した合計得点で争われています。天皇杯と皇后杯を獲得するには、得点配分の高い種目で上位入賞することが重要となります。

福井県は、ほとんどの種目で上位入賞を收め、特に舵手つきフォアと舵手つきクオドルブルでは、中学時代から築き上げた水上で艇を動かす個人の感覚を結集したチームワークの良い漕ぎで、多くの得点を獲得しています。

◆全国の頂点に立ち続けられる理由

ローイング競技で福井県勢が頂点に立ち続けられる理由は、久々子湖での練習環境と国スポーツで勝つために行われる高校等の垣根を超えたチーム編成にあります。

県内すべての高校ボート部が、久々子湖を拠点に活動し、互いに連携を取り合うことで、競技レベルの底上げが図られ、強い選抜チームが持続し、成績を残し続けることができる要因の1つとなっています。

また、2つ目の要因として県勢クルーは、選手個人の身体能力や年間を通して行われるシングルスカルのタイム計測結果等を基に、各チームの指導者がミーティングを重ね、選ばれた選抜クルーであることです。少年年の部（高校生）では、国スポーツで翌年の国スポーツに向け県内すべての高校ボート部が集まり、合同でシングルスカルのタイム計測や計画的な合宿、選考レースを経て選手を選抜し、

強化を行っています。

平成初期までは、単独校の弱点を他校の有力選手で補強する形でクルーが組まれ、短期間の猛練習で国スポーツに登場していました。しかし、人口の少ない福井県が県外の強豪に勝つため、チームの垣根を超えた選抜クルーの編成を始め、各校の指導者たちが練習方法を公開し、指導等の方向性を統一して選手の育成、強化を行い、県全体のレベルアップを図っています。

—総合成績決定方法—

天皇杯 対象種別	皇后杯 対象種別	順位 種目	順位							
			1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
成年男子	成年女子	舵手つきフォア 舵手つきクオドルブル	40	35	30	25	20	15	10	5
少年男子	少年女子	ダブルスカル	24	21	18	15	12	9	6	3
		シングルスカル	8	7	6	5	4	3	2	1

町に根付いたローイング文化をまちづくり・地域の活性化へ

昭和43年の福井国体でローイング競技が久々子湖で初めて開催され、57年が経ちました。今まで、町技としてローイング文化が町に根付いたのは、競技の普及にご尽力いただいた関係者の皆さん、惜しみない努力を費やし、数々の功績を残された選手や指導者の皆さん、そして、町民の皆さんのご理解、ご協力があつたからこそと、深く感謝いたします。

昭和63年から始まった美浜町民レガッタも、多くの町民の皆さんにご参加いただき、「ローイングの町美浜」を象徴する日本最大級の市民参加型レガッタとなりました。大会を通じて、広く町民の皆さんにローイングに親しんでもらうことで、競技の普及や地域の活性化につながっています。そして、紡いできたローイング文化に花が咲き、第79回国民スポーツ大会では、多くの本町関係選手が活躍し、天皇杯10連覇という前人未踏の金字塔を打ち立てることができました。この歴史的偉業は、選手たちや指導者の努力・活躍はもちろん、学校や企業、町民の皆さんのが一丸となって成し遂げた成果だと考えています。

現在、関電ローイングセンターのみはま（県立久々子湖漕艇場）では、国内最高峰の競技環境の整備に向け2,000mコースの延伸工事が進められており、町では完成を見据え、全日本や国際級大会を開催したいと考えています。町としては、引き続きローイング競技を通じて、交流人口の拡大や地域づくり・「ローイングの町美浜」のまちづくりに取り組んでいく所存でありますので、これまで以上のご理解とご支援を心からお願ひ申し上げます。

美浜町長 戸嶋 秀樹